

世界史研究推進委員会

研究テーマ

「イスラーム世界の教材化」と「世界史への興味・関心を育む教材及び指導法の研究」新学習指導要領への対応を中心に」経過報告

大清水高校 堀部 宏 人

本年度も昨年度までの二つのテーマを継続しました。まず「イスラーム世界の教材化」については、未開拓の分野や地域があるという反省と、教材化や授業実践に向けて従来とは異なる視点での捉え直しが出来ないか試行錯誤している意欲の表れと考えていただきました。これまでの研究成果もあわせてまとめていくところです。

次に「世界史への興味・関心を育む教材及び指導法の研究」については、本委員会の基本姿勢がよく示されているテーマです。時代・地域に関する基礎的研究や興味深い歴史素材や文献資料の紹介が重要なことは言うまでもなく、委員会に参加される先生方の質疑応答を聞いているだけでも勉強の刺激になると感じているところですが、それらを実際の授業でどのように利用しているのか、そのためにどのような工夫をしているのかなどを検討することがさらに大切なわけです。日常の授業実践に生かすことのできる研究発表を行うことは、これからも変わらないスタンスです。ちなみに、川口先生（県立川崎・現教頭）が洪武帝の二種類の肖像画を題材に発表された「真実の一つのはず」を実践した例（古川寛紀 上郷）や手塚先生（磯子）の秋季研究発表「世界史学習と地図」を地理Aに応用

した例（澤野理 新城）などが身近な実践報告としてあがりました。なお、本委員会メンバーによる「海から見た世界史」など夏期講義の試みや大阪大学21世紀COEで得られた刺激（別稿）をいかにフィードバックするかなども今後の課題になると思われれます。関心を持たれる先生方の飛び入り参加をお待ちしております。さて、本年度に開催された七回の研究会で発表された内容は次のとおりです。

「授業どうしたらいい！」

松木謙一（柏陽）

「グリオが語るアフリカの歴史」口承伝承をイスラームの世界史学習でどう扱うか」

大久保敏朗（厚木）

「社会科学入門としての自家製白地図プリント」手塚優紀子（磯子）

「世界史教育において「近世」をどのように教えるか」

「銀を巡る世界交易」16世紀を中心に」

古川寛紀（上郷）

「アフガニー」イスラーム世界を駆け抜けた男」

早川英昭（大船）

このほか、「イスラーム帝国」小林克史（秦野南が丘）や「年代別歴史地図16葉」早川英昭（大船）など授業プリントや「世界史の扉」私たちの生活の中の世界史」小林克則（湘南）などコミュニケーション・スキル資料、正月の東南アジア海外史跡踏査のおみやげなど多くの提供があり、参加者の好評を博しておりました。

本年度は次の学校などを研究推進委員会の会場として使用させていただきました。校名・施設名を記して感謝の意を表します。湘南高校（四月二十三日）、川崎市市民ミュージアム（六月十一日）、県立川崎高校（七月九日）、外短付属高校（八月二十五日）、柏陽高校（十月一日）、新栄高校（十二月三日）、湘南高校（二月四日）